大学等名	八戸学院大学
プログラム名	データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

データサイエンス入門(2単位)、情報処理基礎(2単位)の2科目4単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス入門	2	○	○	○	○						
情報処理基礎	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI「データサイエンス入門」(1回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「データサイエンス入門」(1回目) ・Society 5.0、データ駆動型社会「データサイエンス入門」(1・2回目)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例(強化学習)「データサイエンス入門」(6回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「データサイエンス入門」(6回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「データサイエンス入門」(3回目) ・1次データ、2次データ「データサイエンス入門」(3回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「データサイエンス入門」(3回目)
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「データサイエンス入門」(4回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・データ可視化:2軸グラフ、関係性の可視化、地図上の可視化「データサイエンス入門」(5回目) ・今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「データサイエンス入門」(5回目)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル「データサイエンス入門」(5回目) ・教育、インフラ、公共におけるデータ・AI活用事例紹介「データサイエンス入門」(6回目)

(4) 活用に当たったの様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理的・法的・社会的課題 (ELSI: Ethical, Legal and Social Issues) 「データサイエンス入門」(14回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト 「データサイエンス入門」(14回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護 「データサイエンス入門」(14回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断) 「データサイエンス入門」(14回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス 「データサイエンス入門」(14回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介 「データサイエンス入門」(14回目) ・生成AIの留意事項 (偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など) 「データサイエンス入門」(14回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性) 「データサイエンス入門」(15回目) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取 「データサイエンス入門」(15回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 「データサイエンス入門」(15回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数) 「データサイエンス入門」(7回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値) 「データサイエンス入門」(8回目) 「情報処理基礎」(10・12回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い) 「データサイエンス入門」(9回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値 「データサイエンス入門」(9回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡) 「データサイエンス入門」(5・10・11回目) 「情報処理基礎」(13回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図) 「データサイエンス入門」(8・10回目) 「情報処理基礎」(9・12～14回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素) 「データサイエンス入門」(5回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など) 「データサイエンス入門」(5回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法) 「情報処理基礎」(8回目) ・データの集計(和、平均) 「情報処理基礎」(8回目) ・データの並び替え、ランキング 「情報処理基礎」(11回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート) 「データサイエンス入門」(12・13回目)、 「情報処理基礎」(12～15回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

1. AI(人工知能)やDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ問題解決に活用することができる。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 550人 女性 395人 (合計 945人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数												
地域経営学部	340	80	320	76	73											76	24%
健康医療学部	605	180	700	130	122											130	19%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	945	260	1,020	206	195	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	206	20%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人
- ② プログラムの授業を教えている教員数 人
- ③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

- ⑥ 体制の目的
- 八戸学院大学学則第62条第2項に基づき、教務に関する事項の組織的運営を図るため八戸学院大学教務委員会を設置している。(以下「委員会」という。)

委員会は、教育課程の編成、シラバス・履修案内整備、大学基礎学力の支援教育、教養教育等を所管しており、全学共通科目である「データサイエンス入門」、「情報処理基礎」により運営する「データサイエンス・AI教育プログラム」についての各種対応を行う。

- ⑦ 具体的な構成員
- 令和6年度構成員

委員長
 加来 聡 伸(地域経営学部地域経営学科)

副委員長
 有光 琢磨(健康医療学部人間健康学科)

委員

崔 桓 碩(地域経営学部地域経営学科)	横 田 将 志(地域経営学部地域経営学科)
大 木 えりか(健康医療学部人間健康学科)	泉 水 朝 宏(健康医療学部人間健康学科)
小 沢 久美子(健康医療学部看護学科)	切 明 美保子(健康医療学部看護学科)
溝 江 弓 恵(健康医療学部看護学科)	西 川 健(健康医療学部看護学科)
藤 邊 祐 子(健康医療学部看護学科)	野 崎 悦 子(健康医療学部看護学科)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	20%	令和7年度予定	50%	令和8年度予定	75%
令和9年度予定	100%	令和10年度予定	100%	収容定員(名)	1,020

具体的な計画

令和6年度に全学必修科目として「データサイエンス入門」を新設し、既存の必修科目「情報処理基礎」とあわせて、2科目によりプログラムを運営している。したがって、令和9年度には全学年の学生が履修する計画である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

教務委員会および教務課が、適切なクラス編成および時間割の調整を行っている。また、情報システム管理担当部署と連携し、実習用PC端末のメンテナンスを適切に実施している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

教務委員会および教務課において、1年次のオリエンテーション資料や履修の手引きなどに記載することで、学生への周知・指導を行っている。1年次に単位を修得できない場合も想定し、再履修の方法をあらかじめ計画し、該当する学生に対して周知している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

「数理・データサイエンス・AI」に関する知識には、高校までの習熟度に個人差があるため、「データサイエンス入門」および「情報処理基礎」では、毎回の講義資料を学習支援システムに蓄積し、学生がいつでも予習・復習できる体制を整えている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

全学で運用している学習支援システムに講義資料などを掲載することで、学生が予習・復習しやすい環境を整えている。授業時間外の質問には、掲示板やメッセージ機能を通じて対応している。また、各教員が研究室に在室する曜日と時間をあらかじめ設定する「オフィスアワー」制度を運用しており、授業時間外の学習指導や質問にも対応できる体制を整えている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部自己点検評価委員会

(責任者名) 幸田 威久矢

(役職名) 委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	教育プログラムの履修については、当該プログラムを構成する科目(「データサイエンス入門」「情報処理基礎」)が1年次の必修科目であるため、教務課がクラス(30~40人程度)を編成し、学務情報システムを通じて事前に履修登録を行っている。学生の修得状況については、学修支援システムを活用し、出席確認、演習課題の提出、授業中の小テスト、コメントペーパーなどを通じて、学習状況を把握している。
学修成果	令和6年度の授業アンケートにおいて、「学びや成長につながる授業でしたか?」という質問に対し、4段階評価で「ややそう思う」および「そう思う」との肯定的な回答は、「情報処理基礎」で97%、「データサイエンス入門」で93%を占め、一定の評価を得ていることが確認できた。また、卒業年次には学修成果の可視化を目的として、卒業時アンケートを実施しており、本教育プログラムを履修した学生が卒業する年度には、データサイエンス・AIに関するアンケート項目を追加し、評価・分析を行う予定である。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	「データサイエンス入門」では、毎回の授業で学修支援システムのアンケート機能を活用し、「本日の授業について理解できたこと、できなかったこと、授業のポイント」などを学生に記述してもらうことで、一人ひとりの理解度を把握することができた。また、授業アンケートでは、スライドや資料の分かりやすさ、質問や相談のしやすさといった授業環境に関するデータも収集している。これらの結果をもとに、教員は学生の理解を深めるための授業改善に活用している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業アンケートの結果はFD報告書に掲載され、学生にも公開されている。また、アンケート結果には教員による改善点やコメントも併せて記載している。本プログラムの科目は必修科目であるため、選択を推奨する形式のものではないが、学生はアンケート結果や教員のコメントを通じて、本プログラムの授業内容や改善の取り組みについて情報を得ることができる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムを構成する科目のうち、「情報処理基礎」は従来より導入教育として全学必修科目として開講されている。また、「データサイエンス入門」も令和6年度から新たに導入教育として全学必修科目として開講されている。両科目とも、1クラス30~40人程度の少人数クラス編成とし、2~3クラスに分かれて授業を実施している。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	卒業生に対する就職先企業からの評価を把握するため、就職先企業へのアンケートを毎年度実施している。今後、本教育プログラムの修了者を対象としたアンケートを実施する際には、データサイエンスやAIに関する調査項目を追加し、卒業生の活躍状況などについての把握を行う予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学では、第三者の立場から教育・研究水準の向上に資する提言を得ることを目的として、産学官の委員で構成される外部評価を実施している。本教育プログラムについては、令和5年度に実施計画を報告し、デジタル人材の育成に関する要望が寄せられた。また、ビジネスの視点から生成AIを実践的に学ぶ講座の開設についても提案があり、これらの意見を教育プログラムの改善に活用予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「データサイエンス入門」では、学生の興味・関心を引き出すため、AI活用に関する事例を各学科の将来の職業イメージに沿って紹介している。また、実データを用いたデータ分析の授業では、八戸市との連携協定に基づき、市が実施した「公共施設の有効利用に関する市民アンケート結果」のデータ提供を受け、学生が身近な社会課題に対して問題意識を持ちつつ、データを分析・評価することで、学ぶことの意義を実感できるようにしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	授業アンケートの「授業の板書やPowerPointスライド、配布資料などがわかりやすく適切にまとめられていましたか？」といった設問については、担当教員が評価を確認し、学生の「分かりやすさ」の観点から授業の実施方法の見直しを行っている。また、「データサイエンス入門」で説明した内容を、「情報処理基礎」の演習課題として扱うことで、説明だけでは理解しづらい内容も、実習を通じて理解を深めることができるようにしている。

村本 卓 様

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	データサイエンス入門 地域経営Aクラス		
(副題)			
開講責任部署	大学共通		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数 ⑤	2	時間	0.00
代表曜日	金曜日	代表時限	2時限
校地	大学		
科目分類名	リベラルアーツ		
科目分野名	導入教育		
対象学科	地域経営/人間健康/看護		
対象年次	1		

担当教員 ⑥

職種	氏名	所属
教授	◎ 村本 卓	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科
教授	坂本 貴博	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科

① 学習目標(到達目標)	<p>この授業の到達点として、以下が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。 2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。 3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。
授業概要(教育目的)	<p>現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。</p> <p>そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。</p> <p>本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。</p>
授業計画概要 ②③④	<p>第1回 データサイエンスとは (AI・データサイエンスを学ぶ重要性)</p> <p>第2回 社会で起きている変化を知る (Society5.0・AI・IoT・ビックデータ・5G)</p> <p>第3回 社会で活用されているデータ (リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)</p> <p>第4回 データとAI活用領域 (データ・AIを何につかえるのか: デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)</p> <p>第5回 データとAI活用のための技術 (AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)</p> <p>第6回 データとAIの活用現場と最前線 (データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)</p> <p>第7回 データリテラシー① データ活用のプロセス (目的設定-データ収集-分析-考察-表現) とデータの種類</p> <p>第8回 データリテラシー② データの分布と代表値とその意味</p> <p>第9回 データリテラシー③ データのバラつき</p> <p>第10回 データリテラシー④ 相関と回帰の違い</p> <p>第11回 データリテラシー⑤ データ間での因果関係</p> <p>第12回 データリテラシー⑥ アンケート調査結果の集計・解釈演習 (実データ検討)</p> <p>第13回 データリテラシー⑦ アンケート調査結果の集計・解釈演習 (テキストマイニング解析含む) (実データ検討)</p> <p>第14回 データ・AIを扱う留意事項 (データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)</p>

授業計画表

※事前事後学習（予習・復習）に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義（90分）に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。

回	内容	予習	復習
第1回	データサイエンスとは（AI・データサイエンスを学ぶ重要性）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第2回	社会で起きている変化を知る（Society5.0・AI・IoT・ビックデータ・5G）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第3回	社会で活用されているデータ（リサーチ（調査）データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第4回	データとAI活用領域（データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワンツウワンマーケティング等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第5回	データとAI活用のための技術（AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第6回	データとAIの活用現場と最前線（データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第7回	データリテラシー① データ活用のプロセス（目的設定-データ収集-分析-考察-表現）とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第8回	データリテラシー② データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第9回	データリテラシー③ データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第10回	データリテラシー④ 相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第11回	データリテラシー⑤ データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第12回	データリテラシー⑥ アンケート調査結果の集計・解釈演習（実データ検討）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第13回	データリテラシー⑦ アンケート調査結果の集計・解釈演習（テキストマイニング解析含む）（実データ検討）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第14回	データ・AIを扱う留意事項（データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第15回	データを守る（個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

評価方法⑦	小テスト、演習課題等により総合的に評価する
参考文献	必要に応じて適宜指示する。
講義時使用テキスト	教科書は使用しない。
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。 ・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

課題に対するフィードバック方法

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

[ウィンドウを閉じる](#)

村本 卓 様

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	データサイエンス入門 地域経営Bクラス		
(副題)			
開講責任部署	大学共通		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数 ⑤	2	時間	0.00
代表曜日	月曜日	代表時限	4時限
校地	大学		
科目分類名	リベラルアーツ		
科目分野名	導入教育		
対象学科	地域経営/人間健康/看護		
対象年次	1		

担当教員 ⑥

職種	氏名	所属
教授	◎ 村本 卓	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科
教授	坂本 貴博	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科
教授	田村 正文	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科

① 学習目標(到達目標)	<p>この授業の到達点として、以下が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。 2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。 3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。
授業概要(教育目的)	<p>現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。</p> <p>そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。</p> <p>本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。</p>
授業計画概要 ②③④	<p>第1回 データサイエンスとは (AI・データサイエンスを学ぶ重要性)</p> <p>第2回 社会で起きている変化を知る (Society5.0・AI・IoT・ビックデータ・5G)</p> <p>第3回 社会で活用されているデータ (リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)</p> <p>第4回 データとAI活用領域 (データ・AIを何につかえるのか: デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)</p> <p>第5回 データとAI利活用のための技術 (AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)</p> <p>第6回 データとAIの活用現場と最前線 (データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)</p> <p>第7回 データリテラシー① データ活用のプロセス (目的設定-データ収集-分析-考察-表現) とデータの種類</p> <p>第8回 データリテラシー② データの分布と代表値とその意味</p> <p>第9回 データリテラシー③ データのバラつき</p> <p>第10回 データリテラシー④ 相関と回帰の違い</p> <p>第11回 データリテラシー⑤ データ間での因果関係</p> <p>第12回 データリテラシー⑥ アンケート調査結果の集計・解釈演習 (実データ検討)</p> <p>第13回 データリテラシー⑦ アンケート調査結果の集計・解釈演習 (テキストマイニング解析含む) (実データ検討)</p>

第14回 データ・AIを扱う留意事項（データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ）
 第15回 データを守る（個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う）

授業計画表

※事前事後学習（予習・復習）に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義（90分）に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。

回	内容	予習	復習
第1回	データサイエンスとは（AI・データサイエンスを学ぶ重要性）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第2回	社会で起きている変化を知る（Society5.0・AI・IoT・ビックデータ・5G）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第3回	社会で活用されているデータ（リサーチ（調査）データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第4回	データとAI活用領域（データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第5回	データとAI利活用のための技術（AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第6回	データとAIの活用現場と最前線（データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第7回	データリテラシー① データ活用のプロセス（目的設定-データ収集-分析-考察-表現）とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第8回	データリテラシー② データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第9回	データリテラシー③ データのパラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第10回	データリテラシー④ 相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第11回	データリテラシー⑤ データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第12回	データリテラシー⑥ アンケート調査結果の集計・解釈演習（実データ検討）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第13回	データリテラシー⑦ アンケート調査結果の集計・解釈演習（テキストマイニング解析含む）（実データ検討）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第14回	データ・AIを扱う留意事項（データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第15回	データを守る（個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

評価方法⑦	小テスト、演習課題等により総合的に評価する
参考文献	必要に応じて適宜指示する。
講義時使用テキスト	教科書は使用しない。
学生へのメッセージ	・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。

	・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。
課題に対するフィードバック方法	次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

[ウインドウを閉じる](#)

村本 卓 様

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	データサイエンス入門 人間健康Aクラス		
(副題)			
開講責任部署	大学共通		
講義開講時期	後期後半	講義区分	
基準単位数 ⑤	2	時間	0.00
代表曜日	月曜日	代表時限	3時限
校地	大学		
科目分類名	リベラルアーツ		
科目分野名	導入教育		
対象学科	地域経営/人間健康/看護		
対象年次	1		

担当教員 ⑥

職種	氏名	所属
助教	◎ 埴原 啓正	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科

<p>①</p> <p>学習目標(到達目標)</p>	<p>この授業の到達点として、以下が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。 2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。 3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。
<p>授業概要(教育目的)</p>	<p>現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。</p> <p>そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。</p> <p>本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。</p>
<p>②③④</p> <p>授業計画概要</p>	<p>第1回 データサイエンスとは (AI・データサイエンスを学ぶ重要性)</p> <p>第2回 社会で起きている変化を知る (Society5.0・AI・IoT・ビックデータ・5G)</p> <p>第3回 社会で活用されているデータ (リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)</p> <p>第4回 データとAI活用領域 (データ・AIを何につかえるのか: デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)</p> <p>第5回 データとAI活用のための技術 (AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)</p> <p>第6回 データとAIの活用現場と最前線 (データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)</p> <p>第7回 データリテラシー① データ活用のプロセス (目的設定-データ収集-分析-考察-表現) とデータの種類</p> <p>第8回 データリテラシー② データの分布と代表値とその意味</p> <p>第9回 データリテラシー③ データのバラつき</p> <p>第10回 データリテラシー④ 相関と回帰の違い</p> <p>第11回 データリテラシー⑤ データ間での因果関係</p> <p>第12回 データリテラシー⑥ アンケート調査結果の集計・解釈演習 (実データ検討)</p> <p>第13回 データリテラシー⑦ アンケート調査結果の集計・解釈演習 (テキストマイニング解析含む) (実データ検討)</p> <p>第14回 データ・AIを扱う留意事項 (データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)</p> <p>第15回 データを守る (個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)</p>

授業計画表

第1回

回	担当教員・担当教員フリーテキスト	内容	予習	復習
第1回	埴原 啓正	データサイエンスとは（AI・データサイエンスを学ぶ重要性）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第2回	埴原 啓正	社会で起きている変化を知る（Society5.0・AI・IoT・ビックデータ・5G）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第3回	埴原 啓正	社会で活用されているデータ（リサーチ（調査）データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第4回	埴原 啓正	データとAI活用領域（データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第5回	埴原 啓正	データとAI利活用のための技術（AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第6回	埴原 啓正	データとAIの活用現場と最前線（データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第7回	埴原 啓正	データリテラシー① データ活用のプロセス（目的設定-データ収集-分析-考察-表現）とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第8回	埴原 啓正	データリテラシー② データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第9回	埴原 啓正	データリテラシー③ データのパラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第10回	埴原 啓正	データリテラシー④ 相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第11回	埴原 啓正	データリテラシー⑤ データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第12回	埴原 啓正	データリテラシー⑥ アンケート調査結果の集計・解釈演習（実データ検討）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第13回	埴原 啓正	データリテラシー⑦ アンケート調査結果の集計・解釈演習（テキスト	WebClassにアップロードしている授業用スラ	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Web

		マイニング解析含む）（実データ検討）	イド・参考資料を読んでもおくこと。	サイト等を利用して確認しておくこと。
第14回	埴原 啓正	データ・AIを扱う留意事項（データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでもおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第15回	埴原 啓正	データを守る（個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでもおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
評価方法 ⑦		小テスト、演習課題等により総合的に評価する		
参考文献		必要に応じて適宜指示する。		
講義時使用テキスト		教科書は使用しない。		
学生へのメッセージ		<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。 ・ 情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。 		
課題に対するフィードバック方法		次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。		

[ウインドウを閉じる](#)

村本 卓 様

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	データサイエンス入門 人間健康Bクラス		
(副題)			
開講責任部署	大学共通		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数 ⑤	2	時間	0.00
代表曜日	金曜日	代表時限	4時限
校地	大学		
科目分類名	リベラルアーツ		
科目分野名	導入教育		
対象学科	地域経営/人間健康/看護		
対象年次	1		

担当教員 ⑥

職種	氏名	所属
助教	◎ 埴原 啓正	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科

<p>①</p> <p>学習目標(到達目標)</p>	<p>この授業の到達点として、以下が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。 2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。 3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。
<p>授業概要(教育目的)</p>	<p>現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。</p> <p>そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。</p> <p>本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。</p>
<p>②③④</p> <p>授業計画概要</p>	<p>第1回 データサイエンスとは (AI・データサイエンスを学ぶ重要性)</p> <p>第2回 社会で起きている変化を知る (Society5.0・AI・IoT・ビックデータ・5G)</p> <p>第3回 社会で活用されているデータ (リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)</p> <p>第4回 データとAI活用領域 (データ・AIを何につかえるのか: デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)</p> <p>第5回 データとAI活用のための技術 (AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)</p> <p>第6回 データとAIの活用現場と最前線 (データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)</p> <p>第7回 データリテラシー① データ活用のプロセス (目的設定-データ収集-分析-考察-表現) とデータの種類</p> <p>第8回 データリテラシー② データの分布と代表値とその意味</p> <p>第9回 データリテラシー③ データのバラつき</p> <p>第10回 データリテラシー④ 相関と回帰の違い</p> <p>第11回 データリテラシー⑤ データ間での因果関係</p> <p>第12回 データリテラシー⑥ アンケート調査結果の集計・解釈演習 (実データ検討)</p> <p>第13回 データリテラシー⑦ アンケート調査結果の集計・解釈演習 (テキストマイニング解析含む) (実データ検討)</p> <p>第14回 データ・AIを扱う留意事項 (データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)</p> <p>第15回 データを守る (個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)</p>

授業計画表

※事事前事後学習（予習・復習）に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義（90分）に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。

回	担当教員・担当教員フリーテキスト	内容	予習	復習
第1回	埴原 啓正	データサイエンスとは（AI・データサイエンスを学ぶ重要性）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読むしておくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第2回	埴原 啓正	社会で起きている変化を知る（Society5.0・AI・IoT・ビッグデータ・5G）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読むしておくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第3回	埴原 啓正	社会で活用されているデータ（リサーチ（調査）データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読むしておくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第4回	埴原 啓正	データとAI活用領域（データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読むしておくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第5回	埴原 啓正	データとAI利活用のための技術（AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読むしておくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第6回	埴原 啓正	データとAIの活用現場と最前線（データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読むしておくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第7回	埴原 啓正	データリテラシー① データ活用のプロセス（目的設定-データ収集-分析-考察-表現）とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読むしておくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第8回	埴原 啓正	データリテラシー② データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読むしておくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第9回	埴原 啓正	データリテラシー③ データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読むしておくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第10回	埴原 啓正	データリテラシー④ 相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読むしておくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第11回	埴原 啓正	データリテラシー⑤ データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読むしておくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第12回	埴原 啓正	データリテラシー⑥ アンケート調査結果の集計・解釈演習（実データ検討）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読むしておくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第13回	埴原 啓正	データリテラシー⑦ アンケート調査結果の集計・解釈演習（テキスト	WebClassにアップロードしている授業用スラ	授業の内容について整理し、不明な点があれば、

		マイニング解析含む）（実データ検討）	イド・参考資料を読んでもおくこと。	ば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第14回	埴原 啓正	データ・AIを扱う留意事項（データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでもおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第15回	埴原 啓正	データを守る（個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでもおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
評価方法⑦	小テスト、演習課題等により総合的に評価する			
参考文献	必要に応じて適宜指示する。			
講義時使用テキスト	教科書は使用しない。			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。 ・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。 			
課題に対するフィードバック方法	次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。			

[ウインドウを閉じる](#)

村本 卓 様

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	データサイエンス入門 看護Aクラス		
(副題)			
開講責任部署	大学共通		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数 ⑤	2	時間	0.00
代表曜日	水曜日	代表時限	1時限
校地	大学		
科目分類名	リベラルアーツ		
科目分野名	導入教育		
対象学科	地域経営/人間健康/看護		
対象年次	1		

担当教員 ⑥

職種	氏名	所属
教授	◎ 村本 卓	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科
教授	田村 正文	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科
准教授	馬場 祥次	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科

<p>①</p> <p>学習目標(到達目標)</p>	<p>この授業の到達点として、以下が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。 2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。 3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。
<p>授業概要(教育目的)</p>	<p>現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。</p> <p>そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。</p> <p>本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。</p>
<p>授業計画概要</p> <p>②③④</p>	<p>第1回 データサイエンスとは (AI・データサイエンスを学ぶ重要性)</p> <p>第2回 社会で起きている変化を知る (Society5.0・AI・IoT・ビックデータ・5G)</p> <p>第3回 社会で活用されているデータ (リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)</p> <p>第4回 データとAI活用領域 (データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)</p> <p>第5回 データとAI利活用のための技術 (AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)</p> <p>第6回 データとAIの活用現場と最前線 (データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)</p> <p>第7回 データリテラシー① データ活用のプロセス (目的設定-データ収集-分析-考察-表現) とデータの種類</p> <p>第8回 データリテラシー② データの分布と代表値とその意味</p> <p>第9回 データリテラシー③ データのバラつき</p> <p>第10回 データリテラシー④ 相関と回帰の違い</p> <p>第11回 データリテラシー⑤ データ間での因果関係</p> <p>第12回 データリテラシー⑥ アンケート調査結果の集計・解釈演習 (実データ検討)</p> <p>第13回 データリテラシー⑦ アンケート調査結果の集計・解釈演習 (テキストマイニング解析含む) (実データ検討)</p>

第14回 データ・AIを扱う留意事項（データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ）
 第15回 データを守る（個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う）

授業計画表

※事前事後学習（予習・復習）に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義（90分）に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。

回	内容	予習	復習
第1回	データサイエンスとは（AI・データサイエンスを学ぶ重要性）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第2回	社会で起きている変化を知る（Society5.0・AI・IoT・ビックデータ・5G）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第3回	社会で活用されているデータ（リサーチ（調査）データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第4回	データとAI活用領域（データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第5回	データとAI利活用のための技術（AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第6回	データとAIの活用現場と最前線（データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第7回	データリテラシー① データ活用のプロセス（目的設定-データ収集-分析-考察-表現）とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第8回	データリテラシー② データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第9回	データリテラシー③ データのパラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第10回	データリテラシー④ 相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第11回	データリテラシー⑤ データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第12回	データリテラシー⑥ アンケート調査結果の集計・解釈演習（実データ検討）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第13回	データリテラシー⑦ アンケート調査結果の集計・解釈演習（テキストマイニング解析含む）（実データ検討）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第14回	データ・AIを扱う留意事項（データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第15回	データを守る（個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

評価方法⑦	小テスト、演習課題等により総合的に評価する
参考文献	必要に応じて適宜指示する。
講義時使用テキスト	教科書は使用しない。
学生へのメッセージ	・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。

	・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。
課題に対するフィードバック方法	次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

[ウインドウを閉じる](#)

村本 卓 様

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	データサイエンス入門 看護Bクラス		
(副題)			
開講責任部署	大学共通		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数 ⑤	2	時間	0.00
代表曜日	火曜日	代表時限	2時限
校地	大学		
科目分類名	リベラルアーツ		
科目分野名	導入教育		
対象学科	地域経営/人間健康/看護		
対象年次	1		

担当教員 ⑥

職種	氏名	所属
教授	◎ 坂本 貴博	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科
教授	田村 正文	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科

① 学習目標(到達目標)	<p>この授業の到達点として、以下が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。 2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。 3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。
授業概要(教育目的)	<p>現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。</p> <p>そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。</p> <p>本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。</p>
授業計画概要 ②③④	<p>第1回 データサイエンスとは (AI・データサイエンスを学ぶ重要性)</p> <p>第2回 社会で起きている変化を知る (Society5.0・AI・IoT・ビックデータ・5G)</p> <p>第3回 社会で活用されているデータ (リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)</p> <p>第4回 データとAI活用領域 (データ・AIを何につかえるのか: デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)</p> <p>第5回 データとAI活用のための技術 (AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)</p> <p>第6回 データとAIの活用現場と最前線 (データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)</p> <p>第7回 データリテラシー① データ活用のプロセス (目的設定-データ収集-分析-考察-表現) とデータの種類</p> <p>第8回 データリテラシー② データの分布と代表値とその意味</p> <p>第9回 データリテラシー③ データのバラつき</p> <p>第10回 データリテラシー④ 相関と回帰の違い</p> <p>第11回 データリテラシー⑤ データ間での因果関係</p> <p>第12回 データリテラシー⑥ アンケート調査結果の集計・解釈演習 (実データ検討)</p> <p>第13回 データリテラシー⑦ アンケート調査結果の集計・解釈演習 (テキストマイニング解析含む) (実データ検討)</p> <p>第14回 データ・AIを扱う留意事項 (データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)</p>

授業計画表

第1回

回	内容	予習	復習
第1回	データサイエンスとは（AI・データサイエンスを学ぶ重要性）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第2回	社会で起きている変化を知る（Society5.0・AI・IoT・ビックデータ・5G）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第3回	社会で活用されているデータ（リサーチ（調査）データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第4回	データとAI活用領域（データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第5回	データとAI活用のための技術（AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第6回	データとAIの活用現場と最前線（データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第7回	データリテラシー① データ活用のプロセス（目的設定-データ収集-分析-考察-表現）とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第8回	データリテラシー② データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第9回	データリテラシー③ データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第10回	データリテラシー④ 相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第11回	データリテラシー⑤ データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第12回	データリテラシー⑥ アンケート調査結果の集計・解釈演習（実データ検討）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第13回	データリテラシー⑦ アンケート調査結果の集計・解釈演習（テキストマイニング解析含む）（実データ検討）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第14回	データ・AIを扱う留意事項（データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
第15回	データを守る（個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う）	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

評価方法⑦	小テスト、演習課題等により総合的に評価する
参考文献	必要に応じて適宜指示する。
講義時使用テキスト	教科書は使用しない。
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。 ・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。
課題に対するフィードバック方法	次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

村本 卓 様

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報処理基礎 地域経営Aクラス		
(副題)			
開講責任部署	地域経営学部 地域経営学科		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数 ⑤	2	時間	1.00
代表曜日	月曜日	代表時限	4時限
校地	大学		
科目分類名	リベラルアーツ		
科目分野名	導入教育		
対象学科	地域経営学科		
対象年次	1		

担当教員 ⑥

職種	氏名	所属
准教授	◎ 馬場 祥次	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科

学習目標(到達目標) ①	<ol style="list-style-type: none"> レポート作成、図表作成技術を活用できる。 表計算でのデータを理解し適切に扱える。 グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができるようにする。
授業概要(教育目的)	<p>今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。</p>
②③④ 授業計画概要	<ol style="list-style-type: none"> コンピュータとネットワークの基礎知識 キャンパスグループウェアの利用方法 情報セキュリティとネチケット 文書処理① (Wordの基本操作) 文書処理② (書式の設定) 文書処理③ (表作成、図の挿入) 文書処理④ (長文レポート編集と文書校閲) 表計算データ処理① (数式、関数の利用) 表計算データ処理② (ヒストグラムの作成) 表計算データ処理③ (様々なグラフ利用) 表計算データ処理④ (データ抽出、クロス集計) 表計算統計分析① (基本的な統計関数:代表値) 表計算統計分析② (散布図と相関) 表計算統計分析③ (回帰曲線と予測) 実データ (学術データ等含む) 課題演習 (実データ検討)

授業計画表

※事事前事後学習(予習・復習)に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義(90分)に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。

回	担当教員・担当教員フリーテキスト	内容	予習	復習
第1回	馬場 祥次	1. コンピュータとネットワークの基礎知識	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。

第2回	馬場 祥次	2. キャンパスグループウェアの利用方法	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第3回	馬場 祥次	3. 情報セキュリティとネット	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第4回	馬場 祥次	4. 文書処理① (Wordの基本操作)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第5回	馬場 祥次	5. 文書処理② (書式の設定)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第6回	馬場 祥次	6. 文書処理③ (表作成、図の挿入)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第7回	馬場 祥次	7. 文書処理④ (長文レポート編集と文書校閲)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第8回	馬場 祥次	8. 表計算データ処理① (数式、関数の利用)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第9回	馬場 祥次	9. 表計算データ処理② (ヒストグラムの作成)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第10回	馬場 祥次	10. 表計算データ処理③ (様々なグラフ利用)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第11回	馬場 祥次	11. 表計算データ処理④ (データ抽出, クロス集計)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第12回	馬場 祥次	12. 表計算統計分析① (基本的な統計関数: 代表値)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第13回	馬場 祥次	13. 表計算統計分析② (散布図と相関)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。
第14回	馬場 祥次	14. 表計算統計分析③ (回帰曲線と予測)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。
第15回	馬場 祥次	15. 実データ (学術データ等含む) 課題演習 (実データ検討)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。

評価方法 ⑦	課題の提出出席状況等により総合的に評価する。
参考文献	授業用Webサイトにて随時紹介する。
講義時使用テキスト	「情報リテラシー Windows 10・Office 2019対応」富士通エフ・オー・エム (株)
学生へのメッセージ	1. 実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。テキストは随時改訂されているので必ず購入し、ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。
課題に対するフィードバック方法	成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出してください。
卒業認定・学位授与の方針との関連	「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

[ウインドウを閉じる](#)

ここにテキストを入力

村本 卓 様

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報処理基礎 地域経営B・人間健康再履修		
(副題)			
開講責任部署	地域経営学部 地域経営学科		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数 ⑤	2	時間	1.00
代表曜日	金曜日	代表時限	2時限
校地	大学		
科目分類名	リベラルアーツ		
科目分野名	導入教育		
対象学科	地域経営学科		
対象年次	1		

担当教員 ⑥

職種	氏名	所属
准教授	◎ 馬場 祥次	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科

① 学習目標(到達目標)	<p>1. レポート作成、図表作成技術を活用できる。</p> <p>2. 表計算でのデータを理解し適切に扱える。</p> <p>3. グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができるようにする。</p>
授業概要(教育目的)	<p>今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。</p>
②③④ 授業計画概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータとネットワークの基礎知識 2. キャンパスグループウェアの利用方法 3. 情報セキュリティとネチケット 4. 文書処理① (Wordの基本操作) 5. 文書処理② (書式の設定) 6. 文書処理③ (表作成、図の挿入) 7. 文書処理④ (長文レポート編集と文書校閲) 8. 表計算データ処理① (数式、関数の利用) 9. 表計算データ処理② (ヒストグラムの作成) 10. 表計算データ処理③ (様々なグラフ利用) 11. 表計算データ処理④ (データ抽出、クロス集計) 12. 表計算統計分析① (基本的な統計関数:代表値) 13. 表計算統計分析② (散布図と相関) 14. 表計算統計分析③ (回帰曲線と予測) 15. 実データ (学術データ等含む) 課題演習 (実データ検討)

授業計画表

※事事前事後学習(予習・復習)に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義(90分)に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。

回	担当教員・担当教員フリーテキスト	内容	予習	復習
第1回	馬場 祥次	1. コンピュータとネットワークの基礎知識	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。

第2回	馬場 祥次	2. キャンパスグループウェアの利用方法	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第3回	馬場 祥次	3. 情報セキュリティとネット	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第4回	馬場 祥次	4. 文書処理① (Wordの基本操作)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第5回	馬場 祥次	5. 文書処理② (書式の設定)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第6回	馬場 祥次	6. 文書処理③ (表作成、図の挿入)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第7回	馬場 祥次	7. 文書処理④ (長文レポート編集と文書校閲)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第8回	馬場 祥次	8. 表計算データ処理① (数式、関数の利用)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第9回	馬場 祥次	9. 表計算データ処理② (ヒストグラムの作成)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第10回	馬場 祥次	10. 表計算データ処理③ (様々なグラフ利用)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第11回	馬場 祥次	11. 表計算データ処理④ (データ抽出, クロス集計)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第12回	馬場 祥次	12. 表計算統計分析① (基本的な統計関数: 代表値)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
第13回	馬場 祥次	13. 表計算統計分析② (散布図と相関)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。
第14回	馬場 祥次	14. 表計算統計分析③ (回帰曲線と予測)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。
第15回	馬場 祥次	15. 実データ (学術データ等含む) 課題演習 (実データ検討)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。

評価方法 ⑦	課題の提出出席状況等により総合的に評価する。
参考文献	授業用Webサイトにて随時紹介する。
講義時使用テキスト	「情報リテラシー Windows 10・Office 2019対応」富士通エフ・オー・エム (株)
学生へのメッセージ	1. 実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。テキストは随時改訂されているので必ず購入し、ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。
課題に対するフィードバック方法	成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出してください。
卒業認定・学位授与の方針との関連	「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

ウインドウを閉じる

村本 卓 様

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報処理基礎 人間健康Aクラス		
(副題)			
開講責任部署	健康医療学部 人間健康学科		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数 ⑤	2	時間	1.00
代表曜日	月曜日	代表時限	3時限
校地	大学		
科目分類名	リベラルアーツ		
科目分野名	導入教育		
対象学科	人間健康学科		
対象年次	1		

担当教員 ⑥

職種	氏名	所属
教授	◎ 村本 卓	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科

① 学習目標(到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> レポート作成、図表作成技術を活用できる。 基本的な統計分析ができる。 グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができる。
授業概要(教育目的)	<p>今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。</p>
②③④ 授業計画概要	<ol style="list-style-type: none"> コンピュータとネットワークの基礎知識 キャンパスグループウェアの利用方法 情報セキュリティと情報倫理 文書処理(1)－Wordの基本操作 文書処理(2)－書式の設定 文書処理(3)－表作成、図の挿入 文書処理(4)－長文レポート編集と文書校閲 表計算(1)－数式、関数の利用 表計算(2)－ヒストグラム作成 表計算(3)－様々なグラフ利用 表計算(4)－データ抽出、クロス集計 表計算統計分析(1)－基本的な統計関数：代表値 表計算統計分析(2)－散布図と相関 表計算統計分析(3)－回帰曲線と予測 実データ(学術データ等含む)課題演習

授業計画表

※事前事後学習(予習・復習)に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義(90分)に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。

回	担当教員・担当教員フリーテキスト	内容	予習	復習
第1回	村本 卓	コンピュータとネットワークの基礎知識	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する

第2回	村本 卓	キャンパスグループウェアの利用方法	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第3回	村本 卓	情報セキュリティと情報倫理	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第4回	村本 卓	文書処理①（Wordの基本操作）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第5回	村本 卓	文書処理②（書式の設定）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第6回	村本 卓	文書処理③（表作成、図の挿入）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第7回	村本 卓	文書処理④（長文レポート編集と文書校閲）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第8回	村本 卓	表計算①（数式、関数の利用）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第9回	村本 卓	表計算②（ヒストグラム作成）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第10回	村本 卓	表計算③（様々なグラフ利用）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第11回	村本 卓	表計算④（データ抽出、クロス集計）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第12回	村本 卓	表計算統計分析①（基本的な統計関数；代表値）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第13回	村本 卓	表計算統計分析②（散布図と相関）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第14回	村本 卓	表計算統計分析③（回帰曲線と予測）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第15回	村本 卓	実データ（学術データ等含む）課題演習	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する

評価方法⑦	課題の提出状況等により総合的に評価する。
参考文献	授業用Webサイトにて随時紹介する。
講義時使用テキスト	「情報リテラシー Windows10 office2019対応」富士通エフ・オー・エム（株）
学生へのメッセージ	【履修上の注意】 1. 実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。 ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。
課題に対するフィードバック方法	演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする。 成績を知りたい学生には個別に開示する。
卒業認定・学位授与の方針との関連	豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

ウインドウを閉じる

村本 卓 様

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報処理基礎 人間健康Bクラス		
(副題)			
開講責任部署	健康医療学部 人間健康学科		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数 ⑤	2	時間	1.00
代表曜日	月曜日	代表時限	3時限
校地	大学		
科目分類名	リベラルアーツ		
科目分野名	導入教育		
対象学科	人間健康学科		
対象年次	1		

担当教員 ⑥

職種	氏名	所属
教授	◎ 坂本 貴博	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科

学習目標(到達目標) ①	<ol style="list-style-type: none"> レポート作成、図表作成技術を活用できる。 表計算ソフトで基礎的計算設定やグラフの作成ができる。 表計算ソフトでデータ分析ができる。
授業概要(教育目的)	<p>今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。</p>
②③④ 授業計画概要	<ol style="list-style-type: none"> コンピュータとネットワークの基礎知識 キャンパスグループウェアの利用方法 情報セキュリティと情報倫理 文書処理(1)－Wordの基本操作 文書処理(2)－書式の設定 文書処理(3)－表作成、図の挿入 文書処理(4)－長文レポート編集と文書校閲 表計算(1)－数式、関数の利用 表計算(2)－ヒストグラム作成 表計算(3)－様々なグラフ利用 表計算(4)－データ抽出、クロス集計 表計算統計分析(1)－基本的な統計関数：代表値 表計算統計分析(2)－散布図と相関 表計算統計分析(3)－回帰曲線と予測 実データ(学術データ等含む)課題演習

授業計画表

※事前事後学習(予習・復習)に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義(90分)に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。

回	担当教員・担当教員フリーテキスト	内容	予習	復習
第1回	坂本 貴博	コンピュータとネットワークの基礎知識	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する

第2回	坂本 貴博	キャンパスグループウェアの利用方法	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第3回	坂本 貴博	情報セキュリティと情報倫理	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第4回	坂本 貴博	文書処理① (Wordの基本操作)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第5回	坂本 貴博	文書処理② (書式の設定)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第6回	坂本 貴博	文書処理③ (表作成、図の挿入)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第7回	坂本 貴博	文書処理④ (長文レポート編集と文書校閲)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第8回	坂本 貴博	表計算① (数式、関数の利用)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第9回	坂本 貴博	表計算② (ヒストグラム作成)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第10回	坂本 貴博	表計算③ (様々なグラフ利用)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第11回	坂本 貴博	表計算④ (データ抽出、クロス集計)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第12回	坂本 貴博	表計算統計分析① (基本的な統計関数; 代表値)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第13回	坂本 貴博	表計算統計分析② (散布図と相関)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	実践した内容を再度実施する。
第14回	坂本 貴博	表計算統計分析③ (回帰曲線と予測)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第15回	坂本 貴博	実データ (学術データ等含む) 課題演習	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する

評価方法⑦	課題の提出状況等により総合的に評価する。
参考文献	授業用Webサイトにて随時紹介する。
講義時使用テキスト	「情報リテラシー Windows 10・Office 2019対応」富士通エフ・オー・エム (株)
学生へのメッセージ	1. 実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補う必要がある。テキストは随時改訂されているので必ず購入し、ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。
課題に対するフィードバック方法	成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出してください。
卒業認定・学位授与の方針との関連	豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。
実務経験との関連	システムエンジニアとして、コンピュータシステム会社に勤務。技術者としての経験を活かして、社会で必要とされる情報技術を解説します。

[ウインドウを閉じる](#)

村本 卓 様

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報処理基礎 看護Aクラス		
(副題)			
開講責任部署	健康医療学部 看護学科		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数 ⑤	2	時間	1.00
代表曜日	火曜日	代表時限	2時限
校地	大学		
科目分類名	リベラルアーツ		
科目分野名	導入教育		
対象学科	看護学科		
対象年次	1		

担当教員 ⑥

職種	氏名	所属
教授	◎ 村本 卓	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科

学習目標(到達目標) ①

1. レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2. 基礎的な統計分析ができる。
3. グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができるようにする。

授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

②③④ 授業計画概要

1. コンピュータとネットワークの基礎知識
2. キャンパスグループウェアの利用方法
3. 情報セキュリティと情報倫理
4. 文書処理① (Wordの基本操作)
5. 文書処理② (書式の設定)
6. 文書処理③ (表作成、図の挿入)
7. 文書処理④ (長文レポート編集と文書校閲)
8. 表計算データ処理① (数式、関数の利用)
9. 表計算データ処理② (ヒストグラムの作成)
10. 表計算データ処理③ (様々なグラフ利用)
11. 表計算データ処理④ (データ抽出、クロス集計)
12. 表計算統計分析① (基本的な統計関数:代表値)
13. 表計算統計分析② (散布図と相関)
14. 表計算統計分析③ (回帰曲線と予測)
15. 実データ (学術データ等含む) 課題演習 (実データ検討)

授業計画表

※事前事後学習(予習・復習)に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義(90分)に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。

回	担当教員・担当教員フリーテキスト	内容	予習	復習
第1回	村本 卓	コンピュータとネットワークの基礎知識	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

			・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
第2回	村本 卓	キャンパスグループウェアの利用方法	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
第3回	村本 卓	情報セキュリティとネチケット	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
第4回	村本 卓	文書処理①（Wordの基本操作）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
第5回	村本 卓	文書処理②（書式の設定）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
第6回	村本 卓	文書処理③（表作成、図の挿入）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
第7回	村本 卓	文書処理④（長文レポート編集と文書校閲）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
第8回	村本 卓	表計算データ処理①（数式、関数の利用）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
第9回	村本 卓	表計算データ処理②（ヒストグラムの作成）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
第10回	村本 卓	表計算データ処理③（様々なグラフ利用）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。

第11回	村本 卓	表計算データ処理④ (データ抽出, クロス集計)	<ul style="list-style-type: none"> ・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
第12回	村本 卓	表計算統計分析① (基本的な統計関数: 代表値)	<ul style="list-style-type: none"> ・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
第13回	村本 卓	表計算統計分析② (散布図と相関)	<ul style="list-style-type: none"> ・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
第14回	村本 卓	表計算統計分析③ (回帰曲線と予測)	<ul style="list-style-type: none"> ・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
第15回	村本 卓	実データ (学術データ等含む) 課題演習 (実データ検討)	<ul style="list-style-type: none"> ・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
評価方法 ⑦		課題の提出状況等により総合的に評価する。		
参考文献		授業用Webサイトにて随時紹介する。		
講義時使用テキスト		「情報リテラシー Windows 10・Office 2019対応」富士通エフ・オー・エム (株)		
学生へのメッセージ		<ul style="list-style-type: none"> ・実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補う必要がある。 ・ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。 		
課題に対するフィードバック方法		はちキャンWebにてコメントするとともに、次の授業でフィードバックする。		
卒業認定・学位授与の方針との関連		豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。		

ウインドウを閉じる

村本 卓 様

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報処理基礎 看護Bクラス		
(副題)			
開講責任部署	健康医療学部 看護学科		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数 ⑤	2	時間	1.00
代表曜日	水曜日	代表時限	1時限
校地	大学		
科目分類名	リベラルアーツ		
科目分野名	導入教育		
対象学科	人間健康学科		
対象年次	1		

担当教員 ⑥

職種	氏名	所属
教授	◎ 坂本 貴博	八戸学院大学 地域経営学部地域経営学科

学習目標(到達目標) ①	<ol style="list-style-type: none"> レポート作成、図表作成技術を活用できる。 表計算ソフトで基礎的計算設定やグラフの作成ができる。 表計算ソフトでデータ分析ができる。
授業概要(教育目的)	<p>今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。</p>
②③④ 授業計画概要	<ol style="list-style-type: none"> コンピュータとネットワークの基礎知識 キャンパスグループウェアの利用方法 情報セキュリティと情報倫理 文書処理(1)－Wordの基本操作 文書処理(2)－書式の設定 文書処理(3)－表作成、図の挿入 文書処理(4)－長文レポート編集と文書校閲 表計算(1)－数式、関数の利用 表計算(2)－ヒストグラム作成 表計算(3)－様々なグラフ利用 表計算(4)－データ抽出、クロス集計 表計算統計分析(1)－基本的な統計関数：代表値 表計算統計分析(2)－散布図と相関 表計算統計分析(3)－回帰曲線と予測 実データ(学術データ等含む)課題演習

授業計画表

回	担当教員・担当教員フリーテキスト	内容	予習	復習
第1回	坂本 貴博	コンピュータとネットワークの基礎知識	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第2回	坂本 貴博	キャンパスグループウェアの利用方法	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する

第3回	坂本 貴博	情報セキュリティと情報倫理	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
第4回	坂本 貴博	文書処理① (Wordの基本操作)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第5回	坂本 貴博	文書処理② (書式の設定)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第6回	坂本 貴博	文書処理③ (表作成、図の挿入)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第7回	坂本 貴博	文書処理④ (長文レポート編集と文書校閲)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第8回	坂本 貴博	表計算① (数式、関数の利用)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第9回	坂本 貴博	表計算② (ヒストグラム作成)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第10回	坂本 貴博	表計算③ (様々なグラフ利用)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第11回	坂本 貴博	表計算④ (データ抽出、クロス集計)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第12回	坂本 貴博	表計算統計分析① (基本的な統計関数; 代表値)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第13回	坂本 貴博	表計算統計分析② (散布図と相関)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第14回	坂本 貴博	表計算統計分析③ (回帰曲線と予測)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
第15回	坂本 貴博	実データ (学術データ等含む) 課題演習	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する

評価方法⑦	課題の提出状況等により総合的に評価する。
参考文献	授業用Webサイトにて随時紹介する。
講義時使用テキスト	「情報リテラシー Windows10 office2019対応」富士通エフ・オー・エム (株)
学生へのメッセージ	【履修上の注意】 1. 実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。 ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。
課題に対するフィードバック方法	演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする。 成績を知りたい学生には個別に開示する。
卒業認定・学位授与の方針との関連	豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

ウインドウを閉じる

	1年次 (第1・第2 Semester) 地域経営学の基礎を広く わかりやすく学びます。	2年次 (第3・第4 Semester) 実戦を通じた専門的な学習が 入ってきます。	3年次 (第5・第6 Semester) 進路決定の準備と卒業研究への 取り組みが始まります。	4年次 (第7・第8 Semester) 進路を決定し、 卒業研究を仕上げます。
リ ベ ラ ル ア ー ツ	導入教育 [◎2]宗教学 [◎2]データサイエンス入門 [◎2]キリスト教概論 [◎2]情報処理基礎 [2]地域文化論 [◎2]日本語リテラシー [◎2]基礎演習 [2]日本語表現リテラシー [◎2]プレゼンテーション			
	外国語を学ぶ領域 [2]英語 I [2]ドイツ語 [2]英語(TOEIC) I [2]英語コミュニケーション [2]英語 II [2]ドイツ語コミュニケーション [2]英語(TOEIC) II			
	日本語を学ぶ領域(※外国人留学生のみ履修可) [2]日本語 I [2]日本語 III [2]日本語 V [2]日本語 VII [2]日本語 II [2]日本語 IV [2]日本語 VI			
	人としてのあり方を学ぶ領域 [2]哲学 [2]歴史学 [2]社会学 [2]自然科学概論 [2]芸術論 [2]日本国憲法 [2]国際関係論 [2]数学 [2]デザイン論 [2]政治学 [2]海外事情 [2]スポーツの科学 [2]心の科学 [2]行動の科学	社会のあり方を学ぶ領域	自然と科学を学ぶ領域	
日本の文化と社会を学ぶ領域(※外国人留学生のみ履修可) [2]日本文化 I [2]日本文化 II [2]日本社会 I [2]日本文化 II				
キャリア教育 [◎1]キャリアデザイン I [◎1]キャリアデザイン II [◎1]キャリアデザイン III [◎1]キャリアデザイン IV [◎1]キャリアデザイン V [◎1]キャリアデザイン VI [1]キャリアデザイン VII [1]キャリアデザイン VIII				
学部必修 [◎2]経営学 [◎2]会計学原理 [◎2]研究演習 I [◎2]研究演習 II [◎2]研究演習 III [◎2]研究演習 IV [◎2]研究演習 V [◎2]研究演習 VI [◎2]経済学入門 [◎2]法学概論 [◎2]簿記原理 I [◎2]コンピュータサイエンス				
専 門 教 育 科 目	基幹科目 地域経営領域 [2]金融入門 [2]経営史 [2]経営学 [2]人的資源管理 [2]日本経済論 [2]経済学入門 [2]地域経営論 [2]民法 I [2]法学概論 [2]市民社会論		共通選択科目 [2]専門英語 [2]地域経営学特殊講義 II [2]インターンシップ [2]地域経営学特殊講義 III [2]地域経営学特殊講義 I	
	情報・会計領域 [2]簿記原理 II [2]中級簿記 [2]経営情報論 [2]インターネット [2]工業簿記 [2]経済政策論 [2]統計学 [2]財務諸表論 [2]地方財政論 [2]統計演習 [2]行政法		選択科目 地域経営領域 [2]経営管理論 [2]経営戦略論 [2]経営科学 [2]経営情報論 [2]中小企業・ベンチャー企業論 [2]金融経済論 [2]保険論 [2]経済政策論 [2]マーケティング論 [2]労働問題 [2]消費者行動論 [2]地方財政論 [2]地域産業論 [2]地域イノベーション・マネジメント [2]食料経済学 [2]行政法 [2]農業概論 [2]地域マーケティング [2]地域活性化システム論 [2]農業経営学 [2]農業経営学 [2]マクロ経済学 [2]水産経済論 [2]流通経済論 [2]財政学 [2]ミクロ経済学 [2]公共経済学 [2]商事法 [2]民法 II [2]地域社会論	
	情報・会計領域 [2]情報社会論 [2]原価計算論 [2]経営分析論 [2]監査論 [2]データベース設計 [2]上級簿記 [2]情報システム設計 [2]税務会計論 [2]デザイン [2]管理会計論 [2]アプリケーション開発実習 I [2]公会計論 [2]データベース実習 [2]マルチメディアシステム論 [2]情報システム開発 [2]プログラミング [2]職業指導 [2]アプリケーション開発実習 II [2]デザイン実習 [2]グラフィックス [2]情報と職業		専門教育科目とは 各自の職業イメージや進路目的に 合わせ選択科目を履修できます。	
	各自の職業イメージや進路目的に 合わせ選択科目を履修できます。		41	

健康医療学部看護学科
履修系統図

※[]は履修単位数、◎必修科目

	1年次 (第1・第2セメスター)	2年次 (第3・第4セメスター)	3年次 (第5・第6セメスター)	4年次 (第7・第8セメスター)	
	看護職に必要な コミュニケーションスキルを 身につけます。	身体の構造や 健康維持についての メカニズムを学びます。	臨床の現場での 実習を通しての メカニズムを身につけます。	実践能力に 研究成果を活かし 国家試験合格を目指します	
リベラル アーツ	導入教育 [◎2]基礎演習 [◎2]情報処理基礎 [◎2]データサイエンス入門 [◎2]日本語リテラシー	[◎2]キリスト教概論 [◎2]地域文化論 [◎2]プレゼンテーション [2]日本語表現リテラシー	[◎2]宗教学	リベラルアーツとは 広く豊かな教養を身につけると同時に、 コミュニケーション能力を身につける ための科目です。	
	外国語を学ぶ領域 [2]英語 I [2]ドイツ語	[2]英語 II [2]ドイツ語コミュニケーション	[2]英語コミュニケーション [2]英語(TOEIC) I [2]英語(TOEIC) II		
	日本語を学ぶ領域(※外国人留学生のみ履修可) [2]日本語 I [2]日本語 II	[2]日本語 III [2]日本語 IV	[2]日本語 V [2]日本語 VI		
	人としてのあり方を学ぶ領域 [2]哲学 [2]芸術論 [2]デザイン論 [2]心の科学 [2]行動の科学	自然と科学を学ぶ領域 [2]自然科学概論 [2]数学 [2]スポーツの科学			
	社会のあり方を学ぶ領域 [2]歴史学 [2]政治学 [2]国際関係論	[2]日本国憲法 [2]社会学 [2]海外事情			
	日本の文化と社会を学ぶ領域(※外国人留学生のみ履修可) [2]日本文化 I [2]日本社会 I	[2]日本文化 II [2]日本社会 II			
	専門導入科目 [◎1]看護教育のための生物基礎 [1]看護教育のための化学基礎	専門基礎科目			
	人間と健康 [◎2]健康医療総論 [◎2]生命と倫理 [◎2]人間発達学 [◎2]解剖生理学 I	[◎2]解剖生理学 II [◎1]栄養学 [◎1]微生物学	[◎2]病態学 I [◎2]病態学 II [◎2]薬理学		[◎2]病態学 III [◎2]病態学 IV
	環境と健康 [◎1]社会福祉論	[◎1]保健統計学 I [◎1]公衆衛生学	[1]保健統計学 II [◎2]疫学		[1]保健医療福祉行政論 II [◎1]保健医療福祉行政論 I
	看護の基本 [◎2]看護学概論 [◎2]日常生活援助論 [◎1]コミュニケーション論 実習 [◎1]基礎看護学実習 I	[◎2]回復促進援助論	[◎1]ヘルスアセスメント [◎1]看護倫理		[◎2]看護過程論 実習 [◎1]基礎看護学実習 II [◎2]基礎看護学実習 III
看護の展開・成人看護 [◎2]成人看護学概論 [◎2]成人看護援助論 II	[◎2]成人看護援助論 I		[◎3]急性期・手術期看護実習 [◎3]慢性期看護実習		
看護の展開・高齢者看護 [◎2]高齢者看護学概論	[◎2]高齢者看護援助論		[◎3]高齢者生活支援看護実習		
看護の展開・小児看護 [◎2]小児看護学概論	[◎2]小児看護援助論	[◎2]小児看護援助論	[◎1]小児看護学実習 I [◎1]小児看護学実習 II		
看護の展開・母性看護 [◎2]母性看護学概論	[◎2]母性看護援助論	[◎2]母性看護援助論	[◎2]母性看護学実習		
看護の展開・精神看護 [◎2]精神看護学概論	[◎2]精神看護援助論	[◎2]精神看護援助論	[◎2]精神看護学実習		
看護の統合・地域・在宅看護 [◎1]地域保健学	[◎2]地域・在宅看護学概論	[◎2]地域・在宅看護援助論	実習 [◎2]地域・在宅看護実習 [◎1]へき地看護活動論		
看護の統合・看護の発展 [◎1]家族看護論	[◎1]医療安全論	[◎1]統合看護論 [◎1]看護管理論 [◎1]チーム医療論 [◎1]災害看護活動論 [1]リハビリテーション看護 [1]緩和ケア論	実習 [◎2]統合看護実習 [◎1]国際看護活動論 [1]救急看護 [1]看護教育論		
公衆衛生看護 [1]公衆衛生看護学概論 I	[1]公衆衛生看護学概論 II [2]公衆衛生看護支援論 I [2]公衆衛生看護活動展開論 I [1]公衆衛生看護管理論	[1]公衆衛生看護学概論 II [2]公衆衛生看護支援論 II [2]公衆衛生看護活動展開論 II [1]公衆衛生看護支援実習	実習 [1]公衆衛生看護学実習 I [3]公衆衛生看護学実習 II		
看護の研究 [◎2]看護学研究法		[◎2]看護卒業研究			

地域経営学部地域経営学科 ナンバリング表(2024年度入学生用)

～ チェック欄には、すでに修得済み・・・「レ」 今学期履修科目（履修予定科目）・・・「○」を記入してください。 ～

1年生				2年生				3年生				4年生								
	単位数	ナンバー	チェック欄		単位数	ナンバー	チェック欄		単位数	ナンバー	チェック欄		単位数	ナンバー	チェック欄					
導入教育	宗教学	2	100001		外 国 語	英語コミュニケーション	2	110005		キャリア教育 必修科目	キャリアデザインV	1	200005		キャリア教育 必修科目	キャリアデザインVII	1	200007		
	基礎演習	2	100002			英語 (TOEIC) I	2	110006			キャリアデザインVI	1	200006			キャリアデザインVIII	1	200008		
	情報処理基礎	2	100003			英語 (TOEIC) II	2	110007			研究演習III	2	210009			研究演習V	2	210011		
	日本語リテラシー	2	100004			キャリア教育	キャリアデザインIII	1	200003			研究演習IV	2	210010			研究演習VI	2	210012	
	キリスト教概論	2	100005			必修科目	キャリアデザインIV	1	200004			経営科学	2	213018						
	プレゼンテーション	2	100006				研究演習I	2	210007			保険論	2	213019						
	データサイエンス入門	2	100007				研究演習II	2	210008			消費者行動論	2	213020						
	地域文化論	2	100008				経営史	2	211005			食糧経済学	2	213021						
	日本語表現リテラシー	2	100009				日本経済論	2	211006			地域活性化システム論	2	213022						
	英語I	2	110001				民法I	2	211007			マクロ経済学	2	213023						
英語II	2	110002		基幹科目	中級簿記	2	212004		財政学	2	213024									
ドイツ語	2	110003			工業簿記	2	212005		商事法	2	213025									
ドイツ語コミュニケーション	2	110004			財務諸表論	2	212006		地域社会論	2	213026									
日本語I	2	110005			統計演習	2	212007		経営情報論	2	213027									
日本語II	2	110006			地域経営領域	経営管理論	2	213001		経済政策論	2	213028								
日本語III	2	110007				中小企業・ベンチャー企業論	2	213002		地方財政論	2	213029								
日本語IV	2	110008				マーケティング論	2	213003		行政法	2	213030								
日本語V	2	110009				地域産業論	2	213004		経営分析論	2	214010								
日本語VI	2	110010				農業概論	2	213005		情報システム設計	2	214011								
哲学	2	120001				農業経済学	2	213006		アプリケーション開発実習I	2	214012								
芸術論	2	120002		地域経営領域	水産経済論	2	213007		マルチメディアシステム論	2	214013									
デザイン論	2	120003				ミクロ経済学	2	213008		職業指導	2	214014								
心の科学	2	120004				経営戦略論	2	213009		監査論	2	214015								
行動の科学	2	120005				金融経済論	2	213010		税務会計論	2	214016								
歴史学	2	120006				労働問題	2	213011		公会計論	2	214017								
日本国憲法	2	120007				地域イノベーション・マネジメント	2	213012		情報システム開発	2	214018								
政治学	2	120008				地域マーケティング	2	213013		アプリケーション開発実習II	2	214019								
社会学	2	120009				農業経営学	2	213014		グラフィッククス	2	214020								
国際関係論	2	120010				流通経済論	2	213015		情報と職業	2	214021								
海外事情	2	120011			情報・会計領域	公共経済学	2	213016		共通	専門英語	2	215001							
自然科学概論	2	120012				情報社会論	2	214001		目選	インターンシップ	2	215002							
数学	2	120013				データベース設計	2	214002		地域経営学特殊講義I	2	215003								
スポーツの科学	2	120014				デザイン	2	214003		地域経営学特殊講義II	2	215004								
日本文化I	2	120015				原価計算論	2	214004		地域経営学特殊講義III	2	215005								
日本文化II	2	120016				上級簿記	2	214005												
日本社会I	2	120017				管理会計論	2	214006												
日本社会II	2	120018				データベース実習	2	214007												
キャリア教育	キャリアデザインI	1	200001			プログラミング	2	214008												
	キャリアデザインII	1	200002			デザイン実習	2	214009												
必修科目	経営学	2	210001																	
	経済学入門	2	210002																	
	法学概論	2	210003																	
	簿記概論I	2	210004																	
	コンピュータサイエンス	2	210005																	
	会計学原理	2	210006																	
	金融入門	2	211001																	
	人的資源管理	2	211002																	
	地域経営論	2	211003																	
	市民社会論	2	211004																	
基幹科目	簿記原理II	2	212001																	
	インターネット	2	212002																	
	統計学	2	212003																	

注) 1 網掛け …1単位科目。
網掛け以外はすべて2単位科目。
注) 2 網掛け …留学生のみ受講可能
注) 3 取り消し線が記されている科目は、開講しない。

リベラルアーツ	履修・修得(注1)	卒業必要単位数
必修科目		14
語学		4
選択科目		12
専門教育科目	履修・修得(注1)	卒業必要単位数
キャリア教育		6
基幹科目		20
必修科目		24
選択科目(注2)		44

注1.履修・修得の欄には、これから履修する単位と修得した単位を合計した数値を記入。
注2.専門教育科目の選択科目は、基幹科目の選択科目を除いた卒業必要単位数である。

学籍番号：
氏名：

健康医療学部人間健康学科 ナンバリング（2024年度入学生用）

～ チェック欄には、すでに修得済み・・・「レ」 今学期履修科目（履修予定科目）・・・「○」を記入してください。～

1年生		単位数	ナンバー	チェック欄
リベラル アーツ	導入教育	宗教学	2 100001	
		地域文化論	2 100002	
		基礎演習	2 100003	
		プレゼンテーション	2 100004	
		情報処理基礎	2 100005	
		データサイエンス入門	2 100006	
		日本語リテラシー	2 100007	
	日本語表現リテラシー	2 100008		
キャリア 教育科目	キャリアデザインⅠ	1 200001		
	キャリアデザインⅡ	1 200002		
専門教育 科目	学科必修	健康医療総論	2 221001	
		生命と倫理	2 221002	
		人間発達学	2 221003	
		健康管理論	2 221004	
		健康教育論	2 221005	
		心理学	2 221006	
		解剖学・生理学 (運動生理学を含む)Ⅰ	2 221007	
リベラル アーツ	外国語を学ぶ 領域	英語Ⅰ	2 110001	
		英語Ⅱ	2 110002	
		ドイツ語	2 110003	
		ドイツ語コミュニケーション	2 110004	
	日本語を学ぶ 領域	日本語Ⅰ	2 120001	
		日本語Ⅱ	2 120002	
		日本語Ⅲ	2 120003	
		日本語Ⅳ	2 120004	
	人としてのあ り方を学ぶ領 域	哲学	2 120007	
		芸術論	2 120008	
デザイン論		2 120009		
心の科学		2 120010		
行動の科学		2 120011		
歴史学		2 120012		
日本国憲法		2 120013		
社会のあり方 を学ぶ領域	政治学	2 120014		
	社会学	2 120015		
	国際関係論	2 120016		
	海外事情	2 120017		
	自然科学を 学ぶ領域	自然科学概論	2 120018	
	数学	2 120019		
	スポーツの科学	2 120020		
日本の文化と 社会を学ぶ領 域	日本文化Ⅰ	2 120021		
	日本文化Ⅱ	2 120022		
	日本社会Ⅰ	2 120023		
	日本社会Ⅱ	2 120024		
専門教育 科目	教育職プログラム ～保健体育～	水泳	1 222001	
		陸上競技	1 222002	
	認定心理士プ ログラム	感情心理学	2 225001	
		認知心理学	2 225002	
	社会福祉士プ ログラム	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2 226001	
社会福祉の原理と政策Ⅱ		2 226002		
	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ	2 226003		

2年生		単位数	ナンバー	チェック欄	
リベラル アーツ	導入教育	キリスト教概論	2 100009		
	専門教育 科目	学科必修	研究演習Ⅰ	2 221101	
		研究演習Ⅱ	2 221102		
リベラル アーツ	外国語を学ぶ 領域	英語コミュニケーション	2 110005		
		英語 (TOEIC) Ⅰ	2 110006		
		英語 (TOEIC) Ⅱ	2 110007		
	日本語を学ぶ 領域	日本語Ⅴ	2 120005		
		日本語Ⅵ	2 120006		
専門教育 科目	キャリア 教育科目	キャリアデザインⅢ	1 200003		
		キャリアデザインⅣ	1 200004		
	学科必修	健康栄養学	2 221008		
		医学一般	2 221009		
		医学一般Ⅱ	2 221010		
		解剖学・生理学 (運動生理学を含む)Ⅱ	2 221011		
		公衆衛生学	2 221012		
		衛生学	2 221013		
		小児保健	2 221014		
		教育職プログ ラム～保健体 育～	体育原理	2 222003	
			運動学 (運動方法学を含む)	2 222004	
	フットボールスポーツ		1 222005		
	ラケット・バドミントン		1 222006		
バスケットボール・ バレーボール	1 222007				
武道Ⅰ	1 222008				
	武道Ⅱ	1 222009			
	器械体操	1 222010			
	スキー	1 222011			
	スケート	1 222012			
トレーニング指 導者プログラ ム	スポーツ心理学	2 223001			
	コーチング論	2 223002			
教育職プログ ラム～養護・ 保健・看護～	養護概説	2 224001			
	看護学	2 224002			
	栄養学 (食品学を含む)	2 224003			
	微生物学	2 224004			
	学校保健 (学校安全を含む)	2 224005			
	救急処置 (実習を含む)	2 224006			
認定心理士プ ログラム	健康心理学	2 225003			
	児童心理学	2 225004			
	青年心理学	2 225005			
	心理学研究法	2 225006			
	臨床心理学	2 225007			
	心理統計学	2 225008			
社会福祉士プ ログラム	社会福祉調査の基礎	2 226004			
	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱ	2 226005			
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2 226006			
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2 226007			
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2 226008			
	社会保障Ⅰ	2 226009			
	高齢者福祉	2 226010			
	障害者福祉	2 226011			
	児童・家庭福祉	2 226012			
	保健医療と福祉	2 226013			
	権利擁護を支える法制度	2 226014			
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2 226015			

3年生		単位数	ナンバー	チェック欄
学科必修	研究演習Ⅲ	2 221103		
	研究演習Ⅳ	2 221104		
キャリア教育 科目	精神保健	2 221015		
	キャリアデザインⅤ	1 200005		
	キャリアデザインⅥ	1 200006		
教育職プログ ラム～保健体 育～	インターンシップ	2 207001		
	地域スポーツ論	2 222013		
	生涯スポーツ論	2 222014		
	ヘルスエクスササイズ	2 222015		
	健康と運動処方	2 222016		
	ダンス	1 222018		
	栄養指導論	2 223003		
	運動と栄養	2 223004		
	スポーツバイオメカニクス	2 223005		
	トレーニング総論	2 223006		
教育職プログ ラム～養護・ 保健・看護～	免疫学	2 224007		
	看護実践論	2 224008		
	看護技術演習	2 224009		
	看護学臨床実習Ⅰ	2 224010		
	看護学臨床実習Ⅱ	2 224011		
	人間環境論	2 224012		
認定心理士プ ログラム	食生活論	2 224013		
	薬理概論	2 224014		
	社会心理学	2 225009		
	老人・障害者の心理	2 225010		
	心理学基礎実験	2 225011		
	ヘルスカウンセリング	2 225012		
	心理学実習	2 225013		
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2 226016		
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2 226017		
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2 226018		
社会福祉士プ ログラム	福祉サービスの組織と経営	2 226019		
	社会保障Ⅱ	2 226020		
	貧困に対する支援	2 226021		
	刑事司法と福祉	2 226022		
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2 226023		
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2 226024		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1 226025		
	介護概論	2 226026		
	学芸選択	健康科学実習	2 227001	

4年生		単位数	ナンバー	チェック欄
学科必修	研究演習Ⅴ	2 221105		
	研究演習Ⅵ	2 221106		
キャリア教育 科目	キャリアデザインⅦ	1 200007		
	キャリアデザインⅧ	1 200008		
教育職プログ ラム～養護・ 保健・看護～	健康相談活動の理論 及び方法	2 224015		
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2 226027		
社会福祉士プ ログラム	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2 226028		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1 226029		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1 226030		
学芸選択	ソーシャルワーク実習	6 226031		
	卒業研究Ⅰ	2 227002		
	卒業研究Ⅱ	2 227003		

学籍番号：
氏名：

リベラルアーツ	科目数	単位数	卒業必要単位数
必修科目			16
語学			4
選択科目			10
専門教育科目	科目数	単位数	卒業必要単位数
キャリア			6
必修科目			42
選択科目			46

健康医療学部看護学科 ナンバリング表 2024年度入学生

学籍番号

単位取得済=◎ 履修登録科目=○

氏名

科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	配当年次	単位数		履修科目	単位数
				必修	選択		
リベラルアーツ	導入教育	宗教学	100001	2春	2		
		キリスト教概論	100002	1秋	2		
		地域文化論	100003	1秋	2		
		基礎演習	100004	1春	2		
		プレゼンテーション	100005	1秋	2		
		情報処理基礎	100006	1春	2		
		データサイエンス入門	100009	1春	2		
		日本語リテラシー	100007	1春	2		
		日本語表現リテラシー	100008	1秋	2		
		外国語を学ぶ領域	英語 I	110001	1春		2
	英語 II		110002	1秋		2	
	英語コミュニケーション		110003	2春		2	
	英語 (TOEIC) I		110004	2春		2	
	英語 (TOEIC) II		110005	2秋		2	
	ドイツ語		110006	1春		2	
	ドイツ語コミュニケーション		110007	1秋		2	
	日本語を学ぶ領域	日本語 I	120015	1春		2	
		日本語 II	120016	1春		2	
		日本語 III	120017	1秋		2	
		日本語 IV	120018	1秋		2	
		日本語 V	120019	2春		2	
		日本語 VI	120020	2春		2	
	人としてのあり方を学ぶ領域	哲学	120001	1春秋・2春秋		2	
		芸術論	120002	1春秋・2春秋		2	
		デザイン論	120003	1春秋・2春秋		2	
		心の科学	120004	1春秋・2春秋		2	
		行動の科学	120005	1春秋・2春秋		2	
	社会のあり方を学ぶ領域	歴史学	120006	1春秋・2春秋		2	
		日本国憲法	120007	1春秋・2春秋		2	
		政治学	120008	1春秋・2春秋		2	
		社会学	120009	1春秋・2春秋		2	
		国際関係論	120010	1春秋・2春秋		2	
海外事情		120011	1春秋・2春秋		2		
自然と地域を学ぶ領域	自然科学概論	120012	1春秋・2春秋		2		
	数学	120013	1春秋・2春秋		2		
	スポーツの科学	120014	1春秋・2春秋		2		
日本の文化と社会を学ぶ領域	日本文化 I	120021	1春		2		
	日本文化 II	120022	1秋		2		
	日本社会 I	120023	1春		2		
	日本社会 II	120024	1秋		2		
小計(リベラルアーツ)				28単位以上			
専門教育科目	専門導入科	看護教育のための生物基礎	231001	1春	1		
		看護教育のための化学基礎	231002	1春		1	
		小計	1単位以上				
	人間と健康	健康医療総論	232001	1春	2		
		生命と倫理	232002	1春	2		
		人間発達学	232003	1春	2		
		解剖生理学 I	232004	1春	2		
		解剖生理学 II	232005	1秋	2		
		病態学 I	232006	2春	2		
		病態学 II	232007	2春	2		
		病態学 III	232008	2春	2		
		病態学 IV	232009	2秋	2		
		薬理学	232010	2春	2		
		栄養学	232011	1秋	1		
	微生物学	232012	1秋	1			
	環境と健康	社会福祉論	232013	1秋	1		
		公衆衛生学	232014	2春	1		
		疫学	232015	2秋	2		
		保健統計学 I	232016	2春	1		
		保健統計学 II	232017	2秋		1	
		保健医療福祉行政論 I	232018	3春	1		
		保健医療福祉行政論 II	232019	3春		1	
保健医療福祉行政論 III		232020	4秋		1		
小計				29単位以上			

科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	配当年次	単位数		履修科目	単位数	
				必修	選択			
専門教育科目	看護の基本	看護学概論	233001	1春	2			
		日常生活援助論	233002	1春	2			
		回復促進援助論	233003	1秋	2			
		看護過程論	233004	2秋	2			
		コミュニケーション論	233005	1春	1			
		ヘルスアセスメント	233006	2春	1			
		看護倫理	233007	2春	1			
		基礎看護学実習 I	233008	1春	1			
		基礎看護学実習 II	233009	2秋	1			
		基礎看護学実習 III	233010	2秋	2			
		・看護の成人看護開	成人看護学概論	233011	2春	2		
			成人看護援助論 I	233012	2秋	2		
			成人看護援助論 II	233013	2秋	2		
	急性期・周手術期看護実習		233014	3秋~4春	3			
	慢性期看護実習		233015	3秋~4春	3			
	高齢者看護の開	高齢者看護学概論	233016	2春	2			
		高齢者看護援助論	233017	2秋	2			
		高齢者生活支援看護実習	233018	3秋~4春	3			
	小児看護の開	小児看護学概論	233019	2秋	2			
		小児看護援助論	233020	3春	2			
		小児看護学実習 I	233021	3秋~4春	1			
		小児看護学実習 II	233022	3秋~4春	1			
	母性看護の開	母性看護学概論	233023	2秋	2			
		母性看護援助論	233024	3春	2			
		母性看護学実習	233025	3秋~4春	2			
	精神看護の開	精神看護学概論	233026	2秋	2			
		精神看護援助論	233027	3春	2			
		精神看護学実習	233028	3秋~4春	2			
	地域・在宅看護の統合	地域保健学	233029	1秋	1			
		地域・在宅看護学概論	233030	2秋	2			
		地域・在宅看護援助論	233031	3春	2			
		地域・在宅看護実習	233032	4春	2			
		へき地看護活動論	233033	4秋	1			
		看護の統合・看護の発展	統合看護論	233034	3春	1		
	チーム医療論		233035	3春	1			
	医療安全論		233036	2秋	1			
	看護管理論		233037	3春	1			
	看護教育論		233038	4秋		1		
	家族看護論		233039	2春	1			
	救急看護		233040	4秋		1		
	リハビリテーション看護		233041	3春		1		
	緩和ケア論		233042	3春		1		
	災害看護活動論		233043	3春	1			
	国際看護活動論		233044	4秋	1			
	統合看護実習		233045	4春	2			
	公衆衛生看護		公衆衛生看護学概論 I	233046	2秋		1	
			公衆衛生看護学概論 II	233047	3春		1	
			公衆衛生看護学支援論 I	233048	3春		2	
		公衆衛生看護学支援論 II	233049	3秋		2		
		公衆衛生看護学活動展開論 I	233050	3春		2		
		公衆衛生看護学活動展開論 II	233051	3秋		2		
		公衆衛生看護学管理論	233052	3春		1		
		公衆衛生看護学支援実習	233053	3秋~4春		1		
公衆衛生看護学実習 I		233054	4秋		1			
公衆衛生看護学実習 II		233055	4秋		3			
看護の研究	看護学研究法	233056	3春	2				
	看護卒業研究	233057	4通	2				
小計				73単位以上				
合計(専門教育科目)				102単位以上				
総合計(リベラルアーツ+専門教育科目)				131単位以上				

八戸学院大学教務委員会規程

（ 制 定 平成 24 年 2 月 1 日 ）

（ 最終改正 令和 6 年 3 月 13 日 ）

（目的）

第 1 条 この規程は、八戸学院大学学則第 62 条第 2 項に基づき、教務に関する事項の組織的運営を図るため設置する八戸学院大学教務委員会（以下「委員会」という。）の組織および運営について、必要な事項を定める。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 学籍に関すること
- (2) 教育課程の編成に関すること
- (3) 学事暦および授業時間割の編成に関すること
- (4) 講義概要（シラバス）および履修案内等の作成に関すること
- (5) 履修に関すること
- (6) 試験および学業成績に関すること
- (7) 単位互換および既修得単位に関すること
- (8) リメディアル教育の実施に関すること
- (9) 入学前教育の実施に関すること
- (10) 大学基礎学力の支援教育に関すること
- (11) 教員養成課程に関すること
- (12) 教員免許取得に必要な実習等の実施に関すること
- (13) 看護師国家試験、保健師国家試験の受験指導に関すること
- (14) 教養教育に関すること
- (15) その他教務に関すること

（構成）

第 3 条 委員会の委員長、副委員長および委員は、毎年度当初、学部長等の推薦に基づき、学長が任命する。

（会議）

第 4 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立する。

- 2 委員会の議決は、出席委員の過半数の合意によるものとし、可否同数のときは委員長の決するところによる。
- 3 委員長は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求めることができる。

（事務）

第 5 条 委員会の事務は、教務課において処理する。

- 2 委員会は、委員会の日時、開催場所、議決事項その他の事項について、会議録を作成しなければならない。

（規程の改廃）

第 6 条 この規程の改廃は、八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部運営会議の審議を経て学長が決定する。

附 則

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部自己点検評価委員会規程

（ 制 定 平成 24 年 2 月 1 日 ）
（ 最終改正 令和 4 年 2 月 21 日 ）

（目的）

第 1 条 この規程は、八戸学院大学（以下、「大学」という。）学則第 62 条第 2 項および八戸学院大学短期大学部（以下、「短大」という。）学則第 40 条第 2 項に基づき、教育研究活動および管理運営等に関し自ら点検評価を実施するため設置する大学・短大自己点検評価委員会（以下「委員会」という。）の組織および運営について、必要な事項を定める。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 自己点検評価の実施項目および実施計画に関すること
- (2) 自己点検評価の実施に関すること
- (3) 自己点検評価報告書の作成に関すること
- (4) 自己点検評価報告書の公表に関すること
- (5) 自己点検評価に係る連絡および調整に関すること
- (6) その他自己点検評価に関すること

（構成）

第 3 条 委員会委員は、毎年度当初、大学学部長・学科長および短大学科長の推薦に基づき、大学・短大の学長がそれぞれ任命する。

- 2 委員会に委員長および副委員長を置き、大学学長と短大学長が協議のうえ指名する者をもって充てる。

（会議）

第 4 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立する。

- 2 委員会の議決は、出席委員の過半数の合意によるものとし、可否同数のときは委員長の決するところによる。
- 3 委員長は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求めることができる。

（事務）

第 5 条 委員会の事務は、大学評価支援室において処理する。

- 2 委員会は、委員会の日時、開催場所、議決事項その他の事項について、会議録を作成しなければならない。

（規程の改廃）

第 6 条 この規程の改廃は、八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部運営会議の審議を経て学長が決定する。

附 則

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 八戸学院大学短期大学部自己点検評価委員会規程（平成 24 年 2 月 1 日制定）は廃止する。

大学等名	八戸学院大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和 7 年度

取組概要

プログラムの目的	情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について理解し、データサイエンス・AI（人工知能）に関する基礎的な知識や能力、倫理観を育成する。
開講されている科目の構成	データサイエンス入門（2単位） 情報処理基礎（2単位）
内 容	データサイエンス、AI、コンピュータに関する技術や知識、データに基づく思考力や問題解決力の基礎を習得する。
身に付けられる能力	1. AI（人工知能）やDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。 2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ問題解決に活用することができる。
修了要件	データサイエンス入門（2単位）、情報処理基礎（2単位）の2科目4単位を修得すること。
特 徴	1. 全学部・全学科の共通科目（リベラルアーツ必修科目） 2. プログラムの修了要件を満たした修了者には、プログラム修了証を授与
関連科目	地域経営学部では、統計学や経営情報論、健康医療学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。
実施体制（役割）	八戸学院大学教務委員長（運用責任者） 八戸学院大学教務委員会（プログラムの改善・進化） 八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部自己点検評価委員会（プログラムの自己点検・評価）